

# 第9回 救急撮影技師認定試験

日本救急撮影技師認定機構

平成31年3月10日(日)

## 注意事項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味2時間である。

2. 解答方法は次のとおりである。

(1)各問題には1から5まで五つの選択肢があるので、そのうち設問に適した選択肢を一つ選び答案用紙にマークすること。

例 県庁所在地はどれか。

1. 栃木市
2. 川崎市
3. 神戸市
4. 倉敷市
5. 別府市

正解は3であるから該当する欄に以下のごとくマークする。

問題	1	2	3	4	5
例	○ 1 ○	○ 2 ○	●	○ 4 ○	○ 5 ○

(2)答案用紙のマークには出来ればHB以上の黒さの鉛筆を使用する。

(3)設問に要求した以外の個数を解答した場合には誤りとする。

3. 試験室で配布された問題冊子は試験終了時に持ち帰ってよい。

4. 試験開始の合図の後、直ちに中を確認、問題冊子および答案用紙等に印刷や枚数の不備があれば、監督者に申し出ること。

問題 1 わが国の救急医療体制について正しいものはどれか。

1. CT や血管造影が救急医療の質に及ぼす影響は少ない。
2. 平成 16 年から救急救命士は気管チューブを用いた気道確保が行えるようになった。
3. わが国の救急医療制度が誕生するきっかけは 1923 年に起こった関東大震災である。
4. 救急告示病院は医療機関からの申請により厚生労働大臣が承認し施設名を公表できる。
5. 救急医療体制とは救急診療を支援する人的資源を整えたシステムのことで財政的資源は含めない。

問題 2 医療法第 30 条において医療の確保が必要な事業とされる事項について誤っているものはどれか。

1. 救急医療
2. 災害時における医療
3. 精神医療
4. 周産期医療
5. 小児医療

問題 3 JCS(Japan Coma Scale)について正しいものはどれか。

1. スコアは低いほど重症である。
2. 覚醒の度合いによって 4 段階で大別する。
3. 定量的な数値で緊急度を評価する方法である。
4. III-100 は痛み刺激に対し払いのけるような動作をする。
5. III は刺激すると覚醒するが刺激をやめると眠り込む状態である。

問題 4 重症患者管理の基礎について誤っているものはどれか。

1. 頭蓋内圧は 60~70mmHg が正常である。
2. 循環補助として IABP、PCPS などが使用される。
3. SOFA スコアとは多臓器不全患者の経時的な評価スコアである。
4. APACHE II スコアは 3 つのカテゴリーを合計して高値ほど重症である。
5. 循環は心臓のポンプ機能、循環血液量、血管の緊張性によって維持される。

問題 5 Primary survey で行われるショックの検索項目について誤っているのはどれか。

1. 大量血胸
2. 頭蓋内出血
3. 腹腔内出血
4. 後腹膜出血
5. 緊張性気胸

問題 6 災害時に備えた体制について誤っているものはどれか。

1. DMAT は事前に周知された行動計画で活動する。
2. DMAT は医師、看護師、ロジスティックで編成される。
3. DMAT は発災後 48 時間の超急性期に災害現場で活動を行う。
4. 広域搬送計画は被災地域から非被災地域へ傷病者を効率よく移送する計画である。
5. 広域搬送計画は自衛隊が担い手となり、状況により駐留米軍の航空機も活用される。

問題 7 頭部・救急領域において CT が有用な疾患について誤っているものはどれか。

1. 脳出血急性期
2. くも膜下出血急性期
3. 頭部外傷急性期
4. 頭蓋底、顔面頭蓋外傷
5. 前頭葉や側頭葉に局限する脳挫傷や軸索損傷

問題 8 出血性脳血管障害の部位と原因に関する以下の組合せのうち誤っているものはどれか。

1. 脳内出血 - 脳動脈瘤
2. 脳室内出血 - 高血圧
3. 硬膜下血腫 - 頭部外傷
4. 硬膜外血腫 - 硬膜動静脈瘻
5. くも膜下出血 - 脳動静脈奇形

問題 9 60 代男性、右半身麻痺および失語にて救急搬送された症例の頭部単純 CT 画像である。  
次の記述について誤っているものはどれか。

1. 左被殻に出血を認める。
2. 左共同偏視が認められる。
3. 瞳孔は両側の縮瞳が認められる。
4. 左シルビウス裂にくも膜下出血を認める。
5. 出血源の検索を目的として 3D-CTangiography が行われる。

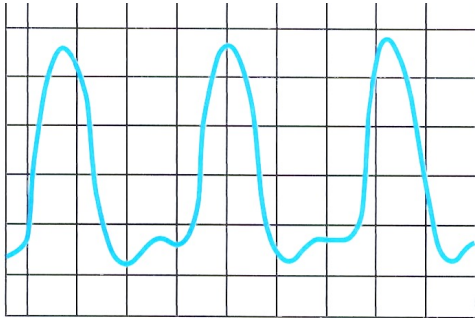


問題 10 呼吸器疾患について誤っているものはどれか。

1. 胸部単純 X 線撮影は管電圧を上げリスホルムブレンドを使用する。
2. 呼吸器救急は大量喀血と胸痛を除けば呼吸困難あるいは急性呼吸不全である。
3. 胸部単純 X 線 CT は仰臥位で行うため出血持続時は緊急で行う必要がある。
4. 緊張性気胸で虚脱率 15%以下の症状が軽いものは外来経過観察が可能である。
5. 大量喀血とは一時に 100ml 以上もしくは 24 時間以内に 600ml 以上の喀出をする。

問題 11 スワンガンツカテーテルで得た圧波形が示す部位に関して正しいものはどれか。

1. 右心圧
2. 右房圧
3. 肺動脈圧
4. 上大静脈圧
5. 肺動脈楔入圧



問題 12 急性冠症候群に関する記述について正しいものはどれか。

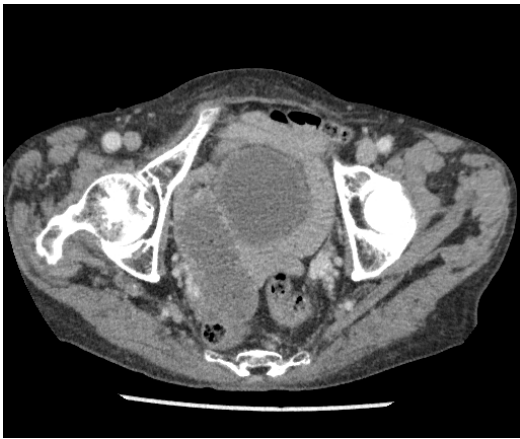
1. IABP とは遠心ポンプと膜型人工肺を用いた閉鎖回路の人工心肺装置により構成される。
2. 代表的な閉塞性病変に対する血管造影の所見分類として TIMI 分類と Forrester 分類がある。
3. 血行動態把握の目的でサーモダイリュージョンカテーテル (Swan-Ganz カテーテル) を用いる。
4. PCPS とは心臓のポンプ機能が低下している患者の循環動態を補助するための補助循環装置である。
5. スtentは再狭窄予防の平滑筋細胞増殖抑制薬が被覆された BMS と被覆されていない DES に分類される。

問題 13 絞扼性腸閉塞の画像に関して正しいものはどれか。

1. 腹部単純 CT は省略できる。
2. 腸管の不正な嘴状の狭窄を **whirl sign** という。
3. 病態によっては門脈内ガスを呈することがある。
4. 腸管を切除するか否かは **stage3** か **4** で判断される。
5. **beak sign** は腸間膜が渦巻き状に走行する所見である。

問題 14 81 歳女性 右下腹部、右大腿内側痛を訴えて救急受診した患者の腹部造影 CT 画像である。  
以下の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 小腸に拡張が認められる。
2. 右閉鎖孔ヘルニアが認められる。
3. Howship-Romberg sign との関連はない。
4. クレアチニン値、e-GFR 値などが造影検査を行う上での指標となる。
5. ウィンドウ幅を調整、また MPR を作成して診断への読影補助的な役割も必要である。



問題 15 泌尿器科系疾患について正しいものはどれか。

1. 複雑性尿路感染症は大腸菌、ブドウ球菌、緑膿菌などが増加する。
2. 単純性尿路感染症としては腸球菌がこれらの起炎菌としてもっとも多い。
3. 結石の組成は、80%が尿酸系結石で 20%がカルシウム系の結石といわれる。
4. 急性腎不全は原因によって腎前性・腎性・腎後性（閉塞性）の 3 型に分類される。
5. 尿管カテーテル法とは尿道内にある閉塞箇所にも S タイプとよばれるカテーテルを通す。

問題 16 産科系疾患について誤っているものはどれか。

1. 卵巣腫瘍破裂は右側に好発する。
2. 子宮外妊娠は卵管破裂を起こすことがある。
3. 産科ショックの 90%は非出血性ショックである。
4. 出産時の弛緩出血は出血性ショックの原因となりやすい。
5. 妊娠に伴う疾患は大量出血によって播種性血管内凝固症候群に移行しやすい。

問題 17 術前 CT を活用した IVR 手技支援・術前計画（pre-procedural planning:PPP）を用いた仮想透視画像の説明について誤っているものはどれか。

1. working angle を活用することで手技時間の短縮に繋がる。
2. 手技に必要な血管分岐のみをプロットするだけでも治療の役に立つことができる。
3. 撮像タイミングは必ず動脈優位相でのボリュームデータであることが条件になる。
4. 作成した画像は任意の角度に回転させ血管分岐の重なりなく把握することができる。
5. 作成中又は作成後のワークステーションの画像を血管造影室内に映し出せるようにしておくが良い。

問題 18 頭部外傷に関する語句の組み合わせにおいて誤っているものはどれか。

1. 直撃損傷 — coup injury
2. 剪断損傷 — shear injury
3. 頭蓋底骨折 — Le Fort I 型骨折
4. 反衝損傷 — contre-coup injury
5. 眼窩底破裂骨折 — blow out fracture

問題 19 バックボードでの X 線撮影の説明で誤っているものはどれか。

1. 患者の臨床症状を把握し対応する。
2. 正確な正面位撮影のため体位を調整する。
3. 患者の安全と撮影時間の短縮をこころがける。
4. 挿管チューブや点滴ラインなどに注意をはらう。
5. 大きめのサイズのカセットや FPD (flat panel detector) を選択する。

問題 20 胸部外傷患者の治療方針とその判断基準について誤っているものはどれか。

1. Stanford A 型の大動脈解離は早期の手術適応となる。
2. 緊張性気胸は循環に関する異常より判断し画像診断は適応しない。
3. 心臓超音波検査にて僧帽弁の損傷を認めれば緊急手術が必要である。
4. 大量血胸に対する胸腔ドレナージで 100ml の血液が回収された場合開胸止血術を行う。
5. 多発肋骨骨折を主体とする胸郭損傷と奇異呼吸を認めればフレイルチェストと診断できる。

問題 21 腹部・骨盤外傷患者に対する治療方針・その判断基準について正しいものはどれか。

1. 脾外傷について脾管断裂を診断できれば手術適応となり CT 検査で診断可能である。
2. 肝損傷について主管部肝静脈および肝後面下大静脈損傷を伴う場合 TAE の適応となる。
3. 脾動脈は吻合を持つ動脈であり脾損傷に対する TAE 術前の出血血管の同定は重要である。
4. 骨盤外傷における造影 CT 検査での活動性出血の検出感度は、血管造影検査と同等である。
5. 肝損傷の経過観察の腹部単純 CT にて損傷部に約 20HU の低吸収域の増加を認めれば胆汁腫を疑う。

問題 22 腹部・骨盤外傷患者に対する CT 検査について正しいものはどれか。

1. 造影 CT で脾臓に見られる不均一な染まりは循環動態に依存しない。
2. 微細な血管外漏出像は厚い再構成スライス厚を用いるとコントラストが上昇する。
3. 肝外傷に合併の一つである肝動静脈瘻 (A-P shunt) は、造影 CT で診断可能である。
4. 造影 CT 検査の前に単純 CT を撮像することで微小出血と仮性動脈瘤との鑑別が行える。
5. 遅延相撮影で CT 値が 30HU 以上を超える新たな高濃度造影剤の漏出を認めれば尿路系損傷と診断できる。



問題 23 四肢外傷について正しいものはどれか。

1. fat fluid level は開放性骨折を示唆する所見である。
2. 脂肪塞栓症の典型例は受傷後 12～48 時間の潜伏期を経て発症する。
3. 開放性骨折のゴールドエンアワーは受傷から 1 時間以内とされている。
4. クラッシュ症候群は循環不全による筋組織・神経の壊死が起こる状態である。
5. コンパートメント症候群は横紋筋融解により循環不全や急性腎不全を引き起こす。

問題 24 妊婦外傷患者に関する記述について正しいものはどれか。

1. 母体に投与された水溶性造影剤は胎児の血液循環へは移行しない。
2. 妊娠 20 週以降では仰臥位低血圧症候群に陥ることがあるので原則右側臥位とする。
3. ABCDE アプローチの他に妊婦外傷では F (fetal assessment and forward) が追加される。
4. 国際放射線防護委員会 2007 年勧告では、胎芽・胎児期の放射線による胚の致死のしきい線量は 10mGy である。
5. 国際放射線防護委員会 2007 年勧告では、胎芽・胎児期の放射線による形態異常のしきい線量は 300mGy である。

問題 25 小児撮影に関する以下の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 腸重積、虫垂炎の診断には超音波検査が行われる。
2. 交通外傷以外での多発肋骨骨折は虐待が疑われる。
3. 腸重積における注腸検査ではカニ爪サインが認められる。
4. 脳症、脳炎における脳浮腫の評価には頭部単純 MRI 検査が必須である。
5. クループでの頸部単純 X 線撮影では wine bottle sign の所見が認められる。

問題 26 中毒患者の診療における以下の記述のうち正しいものはどれか。

1. 中毒患者の体位は原則として半座位となる。
2. 画像診断は中毒物質の特定を目的に撮影される。
3. 有機リン剤による中毒では瞳孔散瞳が見られる。
4. 中毒患者の胸部単純 X 線撮影は処置前に撮影を行う。
5. 吸着剤と混合したガストログラフィンを投与した腹部単純 X 線撮影を行う場合がある。

問題 27 ガス壊疽に関する記述について正しいものはどれか。

1. 腹部単純 CT の画像再構成は Min-IP 法が有用である。
2. 撮影時には標準予防策を講じる必要はないとされている。
3. ガス像の描出は重要であるが広がり描出は重要視されない。
4. 非クロストリジウム属による感染は全身状態が急速に悪化する。
5. 組織内にガス像を認めない場合クロストリジウム属による感染を否定できる。

問題 28 胸部単純 X 線画像における Holzkecht 徴候の記述について正しいものはどれか。

1. 吸気時に心縦隔陰影が健側に移動する。
2. 呼気時に心縦隔陰影が患側に移動する。
3. 緊張性気胸を診断する上で重要なサインである。
4. check valve 機構により患側は透過性が亢進する。
5. 患側の横隔膜は吸気・呼気時ともに移動量が大きくなる。

問題 29 熱傷の記述について正しいものはどれか。

1. 熱傷受傷後の病態は 2 つの病期に分けられる。
2. 熱傷患者の撮影時には手指消毒のみの対応で良い。
3. 熱傷患者のバーンベッド上での X 線撮影はログロールを用いて行う。
4. 高電圧熱傷の場合は四肢骨格筋のコンパートメント症候群に注意すべきである。
5. 熱傷患者の X 線撮影はバーンベッドの電源を入れた状態でカセットを挿入する。

問題 30 厚生労働省医政局通知「災害時の救護所等におけるエックス線撮影装置の安全な使用について」誤っているものはどれか。

1. 原則として臥位撮影を行う。
2. エックス線撮影のみを行うこととし透視は行わない。
3. 立位撮影を行う際は照射方向に人が通行し又は滞在することのない場所とする。
4. 患者の体を支えるなどの介助を行う医療従事者は 0.25mmPb 以上の防護衣、防護手袋を着用させる。
5. 撮影患者以外の患者に対してはエックス線管容器および撮影患者から 2 メートル以上離れた場所で診療を行うこと。

問題 31 無脈性電気活動（PEA）の原因検索で誤っているものはどれか。

1. 低血糖
2. 低血圧
3. 低酸素量
4. 循環血液量の減少
5. 水素イオンアシドーシス

問題 32 条件付き MRI 検査可能医療機器への対応で誤っているものはどれか。

1. 検査を実施するためには施設基準や撮像条件の制限がある。
2. 静磁場強度、SAR、slew rate、使用コイル等に制限がある。
3. 緊急時において検査を施行する場合も条件の制限は同じである。
4. 薬事承認されているものはペースメーカー、ICD、人工内耳などがある。
5. 同じ製品であれば異なる販売メーカーであっても条件の制限は変わらない。

問題 33 電子保存の 3 原則である真正性の確保について正しいものはどれか。

1. 情報の所在管理がなされていること。
2. ウイルスの侵入を許さない体制づくりがなされていること。
3. 情報表示させるための機器・ソフトウェアが常に準備されていること。
4. 確定保存された情報はユーザ認証されたものでしか情報操作はできないこと。
5. 情報の修正や更新に関しては日時・内容・実施者を明確にして履歴を取ること。

問題 34 造影剤の特性と副作用症状（Ernest Folder の副作用分類）の組み合わせで正しいものはどれか。

- |          |   |      |
|----------|---|------|
| 1. 物理特性  | — | くしゃみ |
| 2. 科学的毒性 | — | くしゃみ |
| 3. 過敏性   | — | 不整脈  |
| 4. 科学的毒性 | — | 脱水症状 |
| 5. 過敏性   | — | 蕁麻疹  |

問題 35 飛沫感染予防策が必要となる感染症として誤っているものはどれか。

1. 風疹
2. 百日咳
3. インフルエンザ
4. 流行性耳下腺炎
5. 流行性角結膜炎

問題 36 外傷診療における診療放射線技師として認識しておくべき事項として誤っているものはどれか。

1. 患者の保護的対応（方法）。
2. 読影能力（損傷・疾患認識能力）。
3. 受傷機転・身体所見・徴候について。
4. 各種ガイドライン治療指針などの診療手順の構成を理解する。
5. 時間は重視せず被曝低減のための線量低減を優先した撮影の実践。

問題 37 酸素化能の評価に関する以下の記述のうち誤っているものはどれか。

1.  $\text{PaO}_2$  が 60mmHg 以下では酸素投与の対象となる。
2. 空気呼吸下（RA）において 150mmHg を超えることがある。
3. 動脈血ガス（ABG）において酸素化能の評価は  $\text{PaO}_2$  で行う。
4.  $\text{PaO}_2$  の基準値は空気呼吸下（RA）で 90～100mmHg である。
5. 動脈血酸素分圧（ $\text{PaO}_2$ ）が基準値以下では酸素化能不良を意味する。

問題 38 血液生化学検査に関する以下の記述のうち正しいものはどれか。

1. アミラーゼの増加は膵炎、膵損傷に特異的である。
2. クレアチニン Cr が 4mg/dl 以上の場合には造影剤を使用できる。
3. 腎臓で合成されたクレアチンの一部が筋肉内でクレアチニンとなる。
4. 血糖は意識障害の鑑別に必須で 60mg/dl 以下を低血糖 180mg/dl 以上を高血糖とよぶ。
5. AST/ALT 比が 1 以上で急性肝炎、肝損傷を示唆し 1 未満では肝硬変、心筋梗塞、骨折を示唆する。

問題 39 バイタルサインに関する以下の記述のうち正しいものはどれか。

1. 高体温は体温調節の機構が崩れたときにみられる。
2. 正常呼吸数は成人で毎分 15～20 回年齢によって変わらない。
3. バイタルサインは脈拍、呼吸、SpO<sub>2</sub>、体温、意識レベルの 5 項目がある。
4. 洞性不整脈は呼吸性にみられる不整脈で吸気時に脈が遅くなり呼気時に速くなる。
5. 特殊な呼吸として、チェーン・ストークス呼吸、過換気状態、起坐呼吸、下顎呼吸がある。

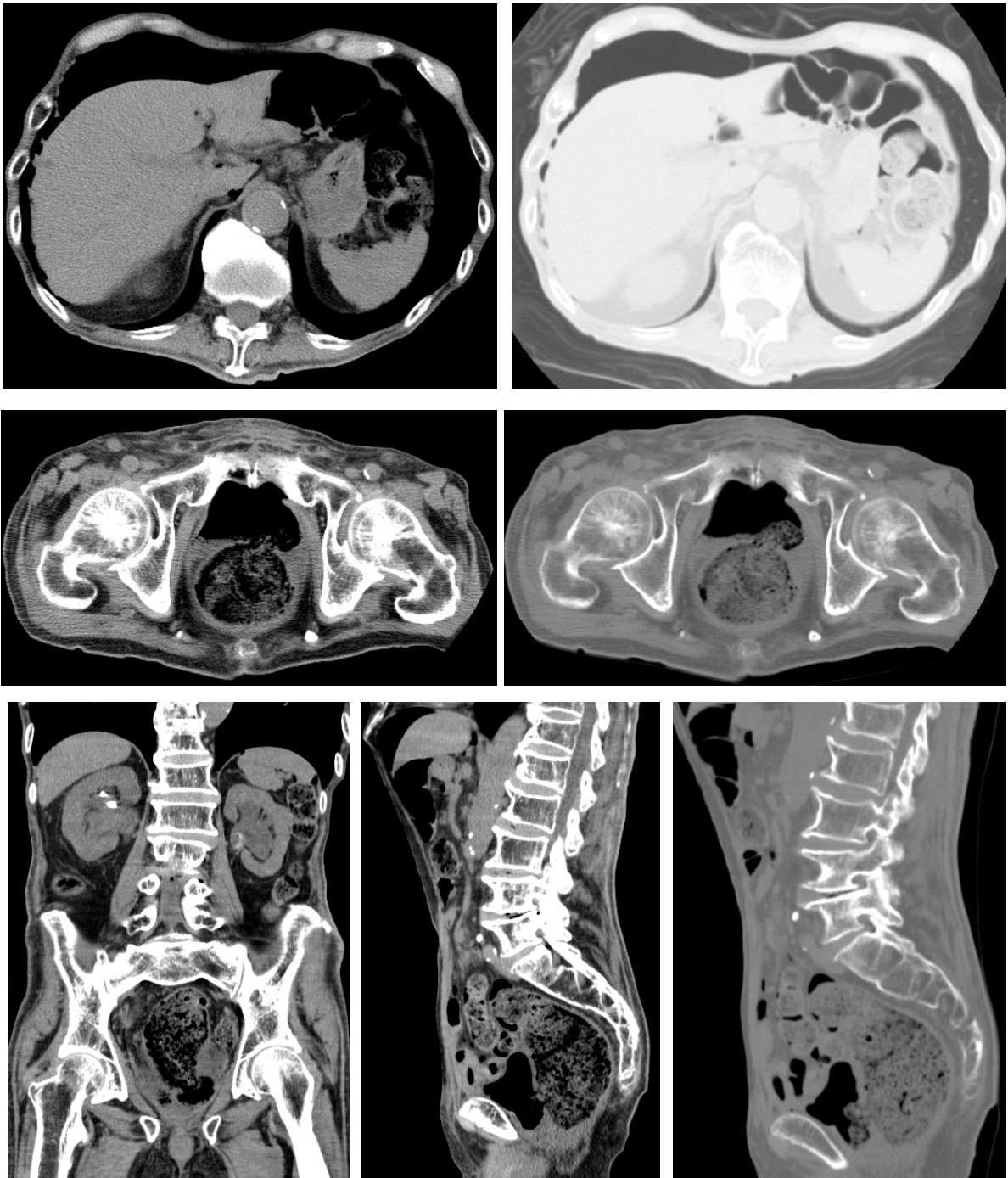
問題 40 次の頸椎 CT 画像に関する以下の記述のうち正しいものはどれか。

1. Chance 骨折である。
2. Jefferson 骨折である。
3. Hangman's 骨折である。
4. 軸椎歯突起骨折 type3(Anderson 分類)である。
5. 頸椎評価は外傷初期診療において必須項目ではない。



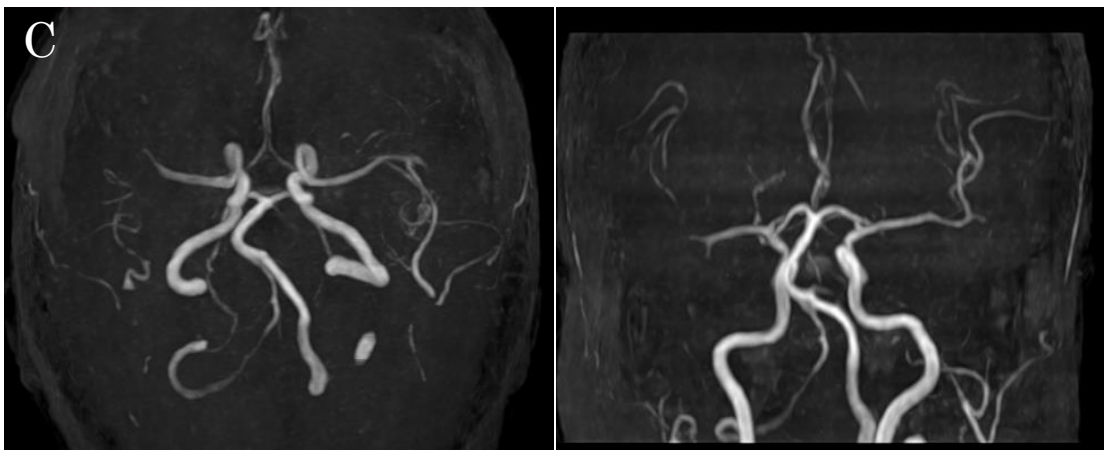
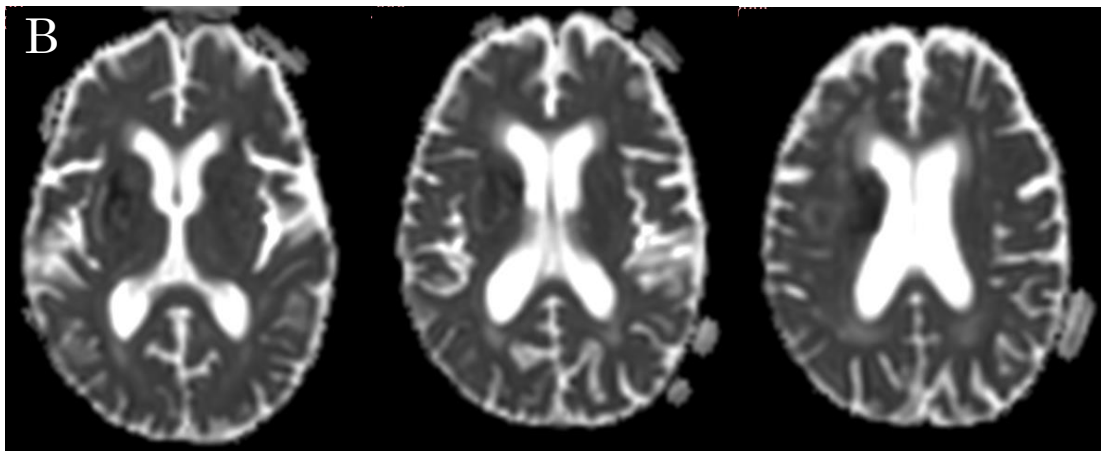
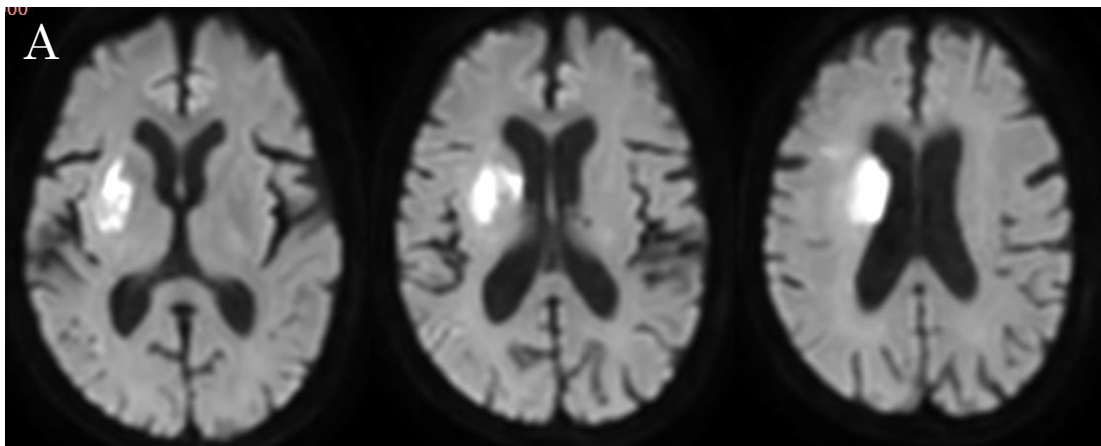
問題 41 次の腹部 CT 画像に関する以下の記述のうち誤っているものはどれか。

1. 肝辺縁及び肝円索裂に腸管外ガスを認める。
2. 画像から硬便による宿便性穿孔が考えられる。
3. 直腸の前壁の欠損と **dirty mass sign** を認める。
4. この症例は汎発性腹膜炎となる重篤な疾患である。
5. CT 検査における腸管外ガスの検出率は 70~80% で穿孔部位や原因の特定、合併症の評価をすることが出来る。



問題 42 85 歳女性. 12 時頃倦怠感が出現し 19 時頃に廊下で腹臥位にて倒れていた患者の頭部単純 MRI 画像である. 以下の記述のうち誤っているものはどれか. ※既往歴に発作性心房細動. 来院時 GCS13(E3V4M6)

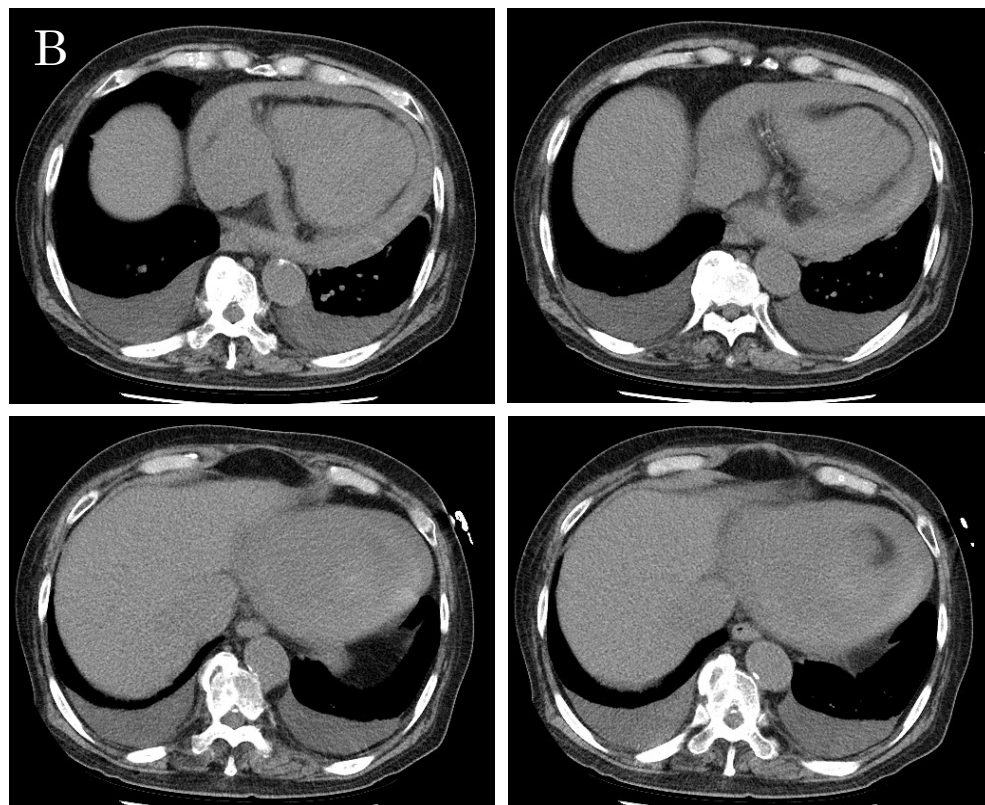
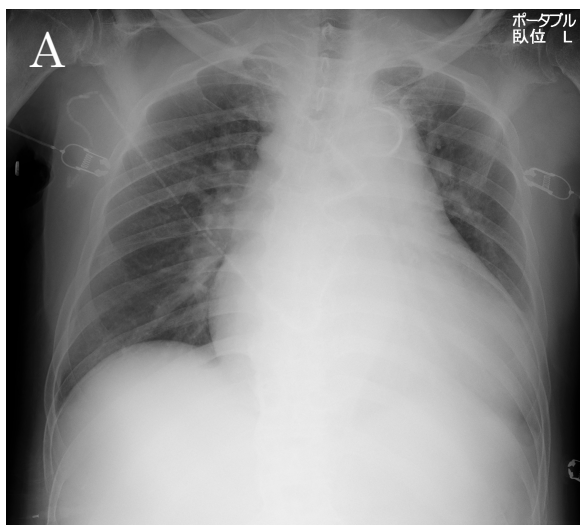
1. A は拡散強調画像で右の被殻から放線冠に高信号を認める.
2. B は ADC map で A と同部位に ADC の低下を認める.
3. ADC map は細胞性浮腫と血管性浮腫の鑑別が可能である.
4. C は MRA で右 MCA、M2 の描出不良を認める.
5. 超急性期の心原性脳塞栓を疑い rt-PA による血栓溶解療法が推奨される.



問題 43 78 歳男性. かかりつけ医院の待合で倒れ収縮期血圧 80-60mmHg 程度に低下しており心電図上 ST 上昇を認めたため紹介搬送された患者の画像である. 以下の記述のうち誤っているものはどれか.

※普段の収縮期血圧は 160mmHg 程度. 心電図は心房細動 (Af) 波形あり.

1. A は左第 1~4 弓の直線化および巾着型心陰影拡大がみられる.
2. B は多量の胸水と心嚢内への血性の液体貯留がみられる.
3. A、B の病態は出血性ショックで突然の心停止を引き起こす.
4. A、B より急性大動脈解離の除外目的で造影 CT の撮影を考慮する.
5. A、B の原因は Af による血栓形成から一時的な心筋虚血を起こし、再開通による血管破綻によるものと考えられる.





問題 44 列車脱線事故において多数傷病者が発生した。事故現場では START 法に従いトリアージを行うことになった。トリアージ区分について正しいものはどれか。

1. 現場でのトリアージは複数回行う必要はない。
2. START 法による一次トリアージは医師によって行われる必要がある。
3. 成人女性がこちらへ泣きながら助けを求めて来たので準緊急治療群（Ⅱ）に振り分けた。
4. 小児がトリアージタグを外す可能性を考え近くにいた母親にその児のトリアージタグをつけた。
5. 図に示すバイタルサインの評価からトリアージタグのトリアージ区分は緊急治療群（Ⅰ）とする。

### トリアージ・タグ

No.	氏名 (Name)	年齢 (Age)	性別 (Sex)
25	キョウキョウ タロウ	40	男 (M) 女 (F)
住所 (Address)		電話 (Phone)	
トリアージ実施月日・時刻		トリアージ実施者氏名	
2月10日 AM 8時20分			
搬送機関名		収容医療機関名	
トリアージ実施場所		現場救護所 A	
傷病名			
バイタルサイン	意識	<input checked="" type="radio"/> 清明 刺激で覚醒する 覚醒している 刺激しても覚醒しない	
	呼吸	20 回/分、呼吸困難、無呼吸	
	脈拍	回/分、整、不整、 <u>感知せず</u>	
	血圧	/ mmHg	
トリアージ区分	0 I II III	医師 救急 救命 士 他	

0  
I  
II  
III

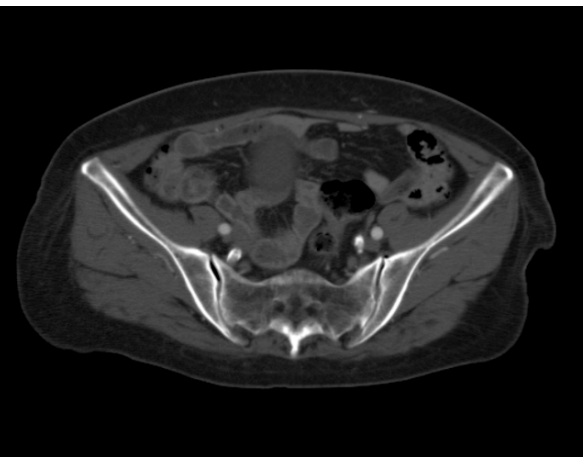
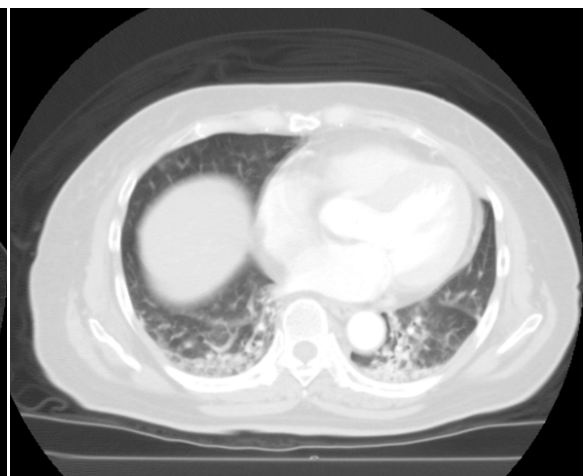
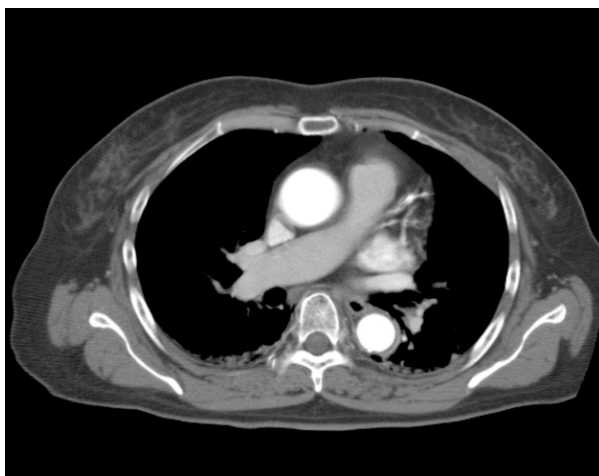
問題 45 初療室に搬入されたショック状態の患者の画像に関する記述について誤っているものはどれか。

1. 胃管が挿入されている。
2. 胸腔ドレナージチューブが挿入されている。
3. 気管挿管チューブは正しい位置に挿入されている。
4. PCPS ブラッドアクセスの送血カテーテルは中心静脈内に留置されている。
5. 肺動脈カテーテルは、内頸静脈から右房、右室を經由し肺動脈に留置されている。



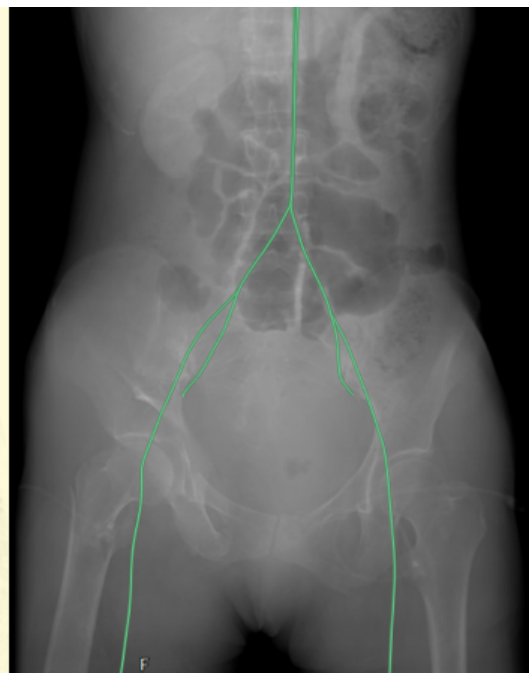
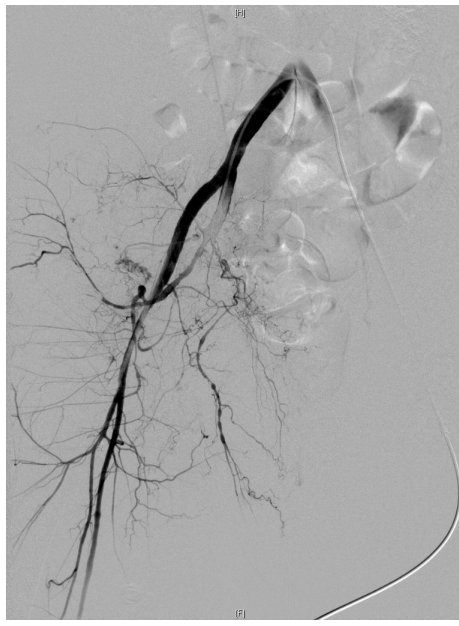
問題 46 外傷全身 CT の画像を FACT (focused assessment with CT for trauma) に従い読影する事にした。  
読影の第 1 段階で誤っているものはどれか。

1. 仙腸関節のレベルでは骨盤骨折は認められない。
2. 直腸膀胱窩のスライスでは特に異常は認められない。
3. 上行大動脈の起始部のスライスでは異常は認められない。
4. 左のシルビウス裂溝に高吸収域が認められるので FACT 陽性である。
5. 下肺のスライスにおいて広範な肺挫傷が疑われるので、FACT 陽性である。



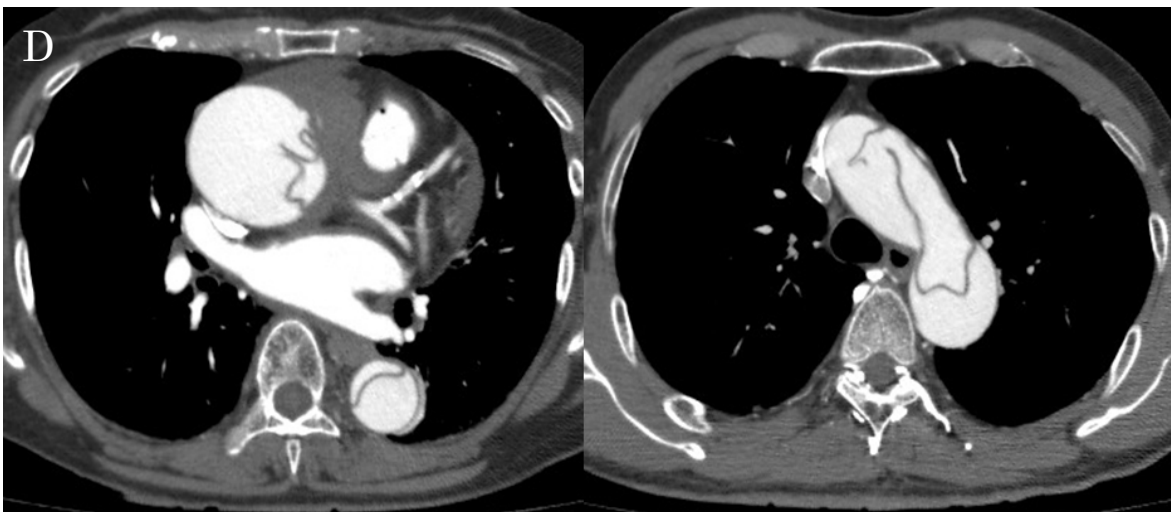
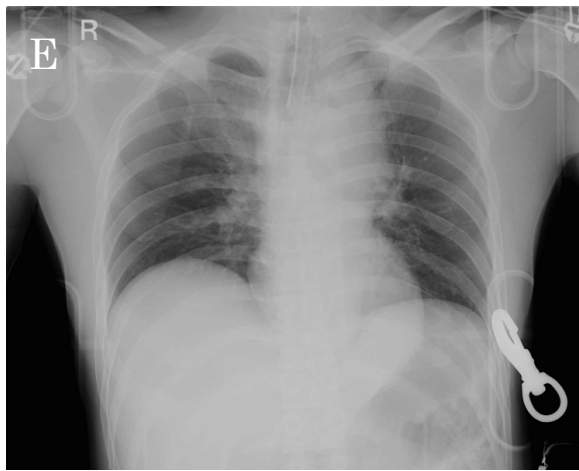
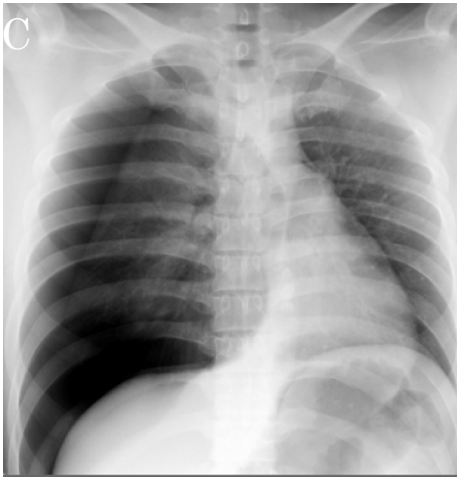
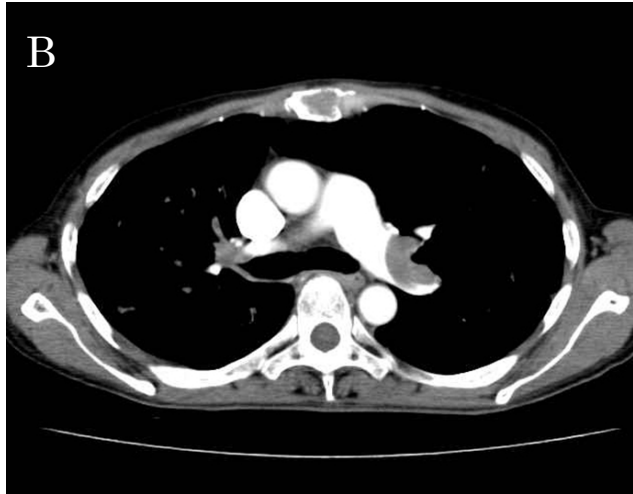
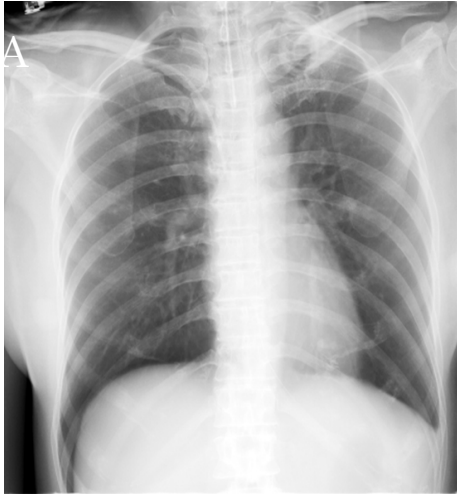
問題 47 転落外傷にて搬送された患者の画像における記述について正しいものはどれか。

1. 活動性出血は認められない。
2. 骨盤動揺の恐れがあるので背部観察の際にログロールを行った。
3. 骨盤の輪状構造に破綻が見られない骨折なので安定型と分類される。
4. 外傷全身 CT のデータから pre-procedural planning の為の種々の画像を作成した。
5. 依頼指示が骨盤 X 線撮影だったので骨盤の範囲でトリミングを行い画像処理をした。



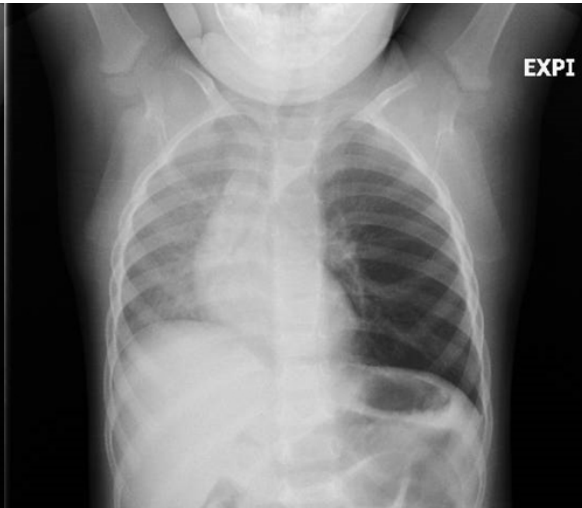
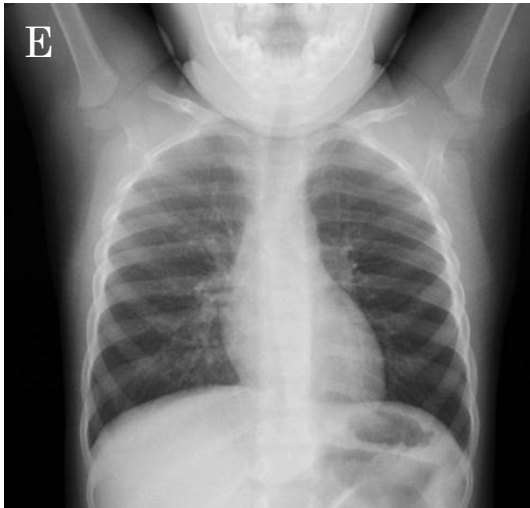
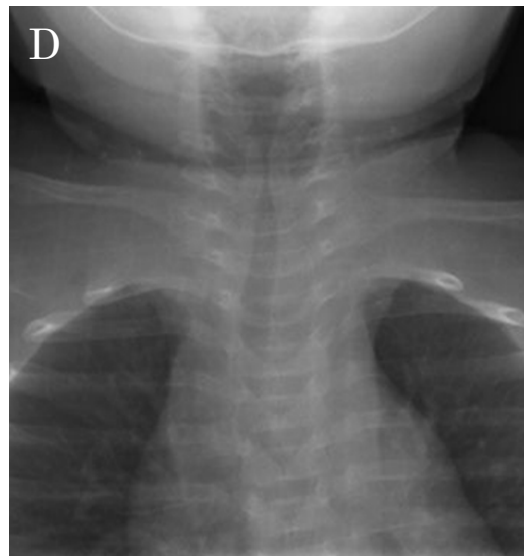
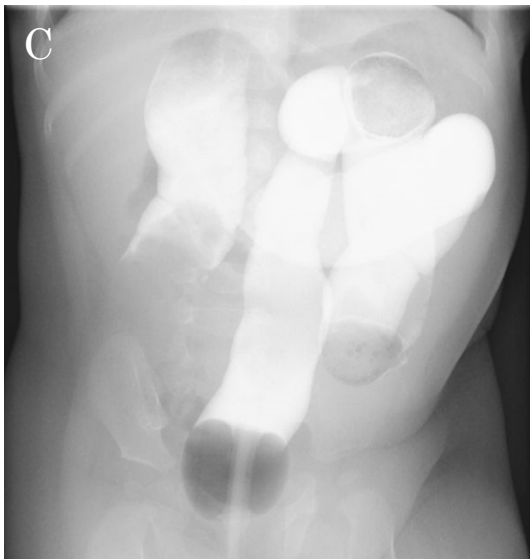
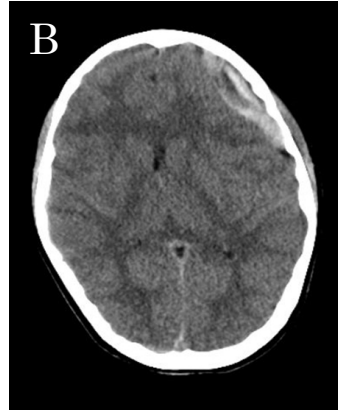
問題 48 救急胸部疾患の画像について誤っているものはどれか。

1. 画像 A は medical stripe sign を示す右肺気胸像である。
2. 画像 B は肺動脈部に造影欠損部を認め肺血栓塞栓症の所見である。
3. 画像 C は右肺虚脱、縦隔左側偏位、右横隔膜低位を示す緊張性気胸像である。
4. 画像 D は大動脈起始部から解離が広がっている Stanford A 型の大動脈解離である。
5. 画像 E は上縦隔拡大、大動脈輪郭の不明瞭化を示し、外傷性大動脈損傷を疑う所見である。



問題 49 小児救急疾患における画像について誤っているものはどれか。

1. 画像 A は単純 CT にて糞石様像を認め急性虫垂炎を疑う。
2. 画像 B は 9 歳交通外傷で急性硬膜外血腫の所見を認める。
3. 画像 C は 1 歳小児注腸検査でカニ爪状サインを認め壊死性腸炎と診断できる。
4. 画像 D は 3 歳吸気性喘鳴でクループ症候群を疑い単純 X 線撮影で pencil sign を認める。
5. 画像 E は 2 歳咳嗽出現し誤嚥の可能性を考慮し呼気・吸気撮影を行い Holzkecht's sign を認めた。



問題 50 心電図波形に関する以下の記述のうち誤っているものはどれか。

1. A は心室頻拍 (VT) である。
2. B は心室細動 (VF) である。
3. C は心停止 (asystole) である。
4. D は無脈性電気活動 (PEA) である。
5. 胸骨圧迫が有効な波形は B、C のみである。

